

4 内閣府男女共同参画局による配偶者暴力等被害者支援緊急対策事業の概要（「配偶者暴力等被害者支援緊急対策事業 パープルダイヤルー性暴力・DV相談電話ー 集計結果」から関係部分をまとめたもの）

（1）事業の概要

ア 事業目的

配偶者からの暴力及び性暴力による被害についての相談窓口を広く周知し、どこ（だれ）にも相談できず一人で悩み苦しんでいる被害者に相談を促すとともに、必要に応じて付き添い支援を行い、被害者を必要な支援の窓口につなげることを目的として、平成22年度補正予算において、「パープルダイヤルー性暴力・DV相談電話ー」を開設し、緊急かつ集中的に相談対応を行った。

イ 相談受付期間

平成23年2月8日（火）午前10時から3月27日（日）午後10時まで

ウ 相談の対象

配偶者からの暴力の被害に関する相談

性暴力の被害に関する相談（※1）

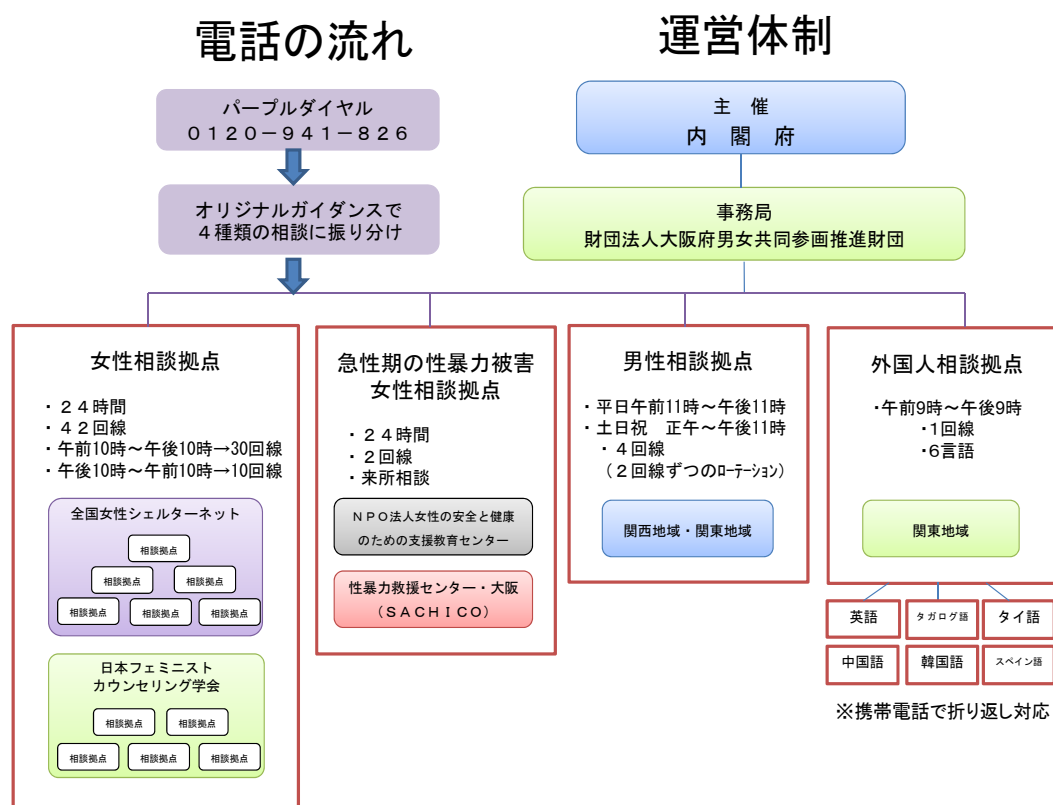
エ 相談の種類と体制

- ・電話相談：配偶者からの暴力及び性暴力の被害について、4種類の電話回線（①女性相談者向け回線、②急性期の性暴力被害女性向け回線（※2）、③男性相談者向け回線、④外国人相談者向け回線）を設けて相談対応を行った。実際に相談対応を行う相談員については、民間支援団体から協力を得た（図1参照）。
- ・来所相談：急性期の性暴力被害女性向け回線では、相談者本人が希望する場合には、対面で相談を受ける来所相談を行った。
- ・付き添い支援：電話を受けた相談員が、緊急時の安全の確保が必要となる可能性があると判断した場合において、相談者が希望する場合には、相談機関等への付き添い支援を行った。

（※1）パープルダイヤルにおいては、「性暴力の被害」について、「加害者が誰であるかを問わず「強姦（レイプ）」、「強制わいせつ」などの性犯罪による被害を言い、その被害の時期や年齢を問わず、また、その被害を警察に対して申告したかどうかを問わない」と定義した。

(※2) パープルダイヤルにおいては、被害直後からおおよそ1年未満で、緊急避妊、妊娠診断等検査、性感染症等検査、証拠採取、外傷の治療・検査等産婦人科的対応を希望する者や、混乱した気持ちや問題の整理、適切なリファー先（被害者に紹介する相談窓口や支援窓口）等の情報提供等継続的な支援を要する者を、「急性期の性暴力被害女性」と定義した。

図1 実施体制図



(2) 結果概要

ア 回線の種類別相談件数

パープルダイヤルでは、2月8日から3月27日までの相談期間中に合計23,460件の電話を受け、そのうち20,462件について「相談対応表」に相談内容の記入を行い、「相談対応表」に記入を行ったものについて集計がなされた。

回線の種類別相談件数は表1のとおりであった。

表 1 回線の種類と件数

	合計		相談		無言・いたづら・苦情等	
	件数	%	件数	%	件数	%
①女性相談者向け回線	15,454	100.0	13,789	89.2	1,665	10.8
②急性期の性暴力被害女性向け回線	2,216	100.0	1,302	58.8	914	41.2
③男性相談者向け回線	1,814	100.0	1,378	76.0	436	24.0
④外国人相談者向け回線	978	100.0	879	89.9	99	10.1
合計	20,462	100.0	17,348	84.8	3,114	15.2

各電話回線に寄せられた相談内容は、次のとおりであった。

①女性相談者向け回線

配偶者からの暴力に関する相談8,970件、その他の相談4,819件（うち（過去の）強姦・強制わいせつに関する相談1,220件）であった。

②急性期の性暴力被害女性向け回線

1,302件の相談のうち540件が「強姦・強制わいせつ」に関する相談であった。これについては、「ウ 急性期の性暴力被害女性向け回線」で詳しく記述する。

③男性相談者向け回線

配偶者からの暴力に関する相談312件、その他の相談1,066件（うち強姦・強制わいせつ、セクハラ、ストーカー行為183件）であった。

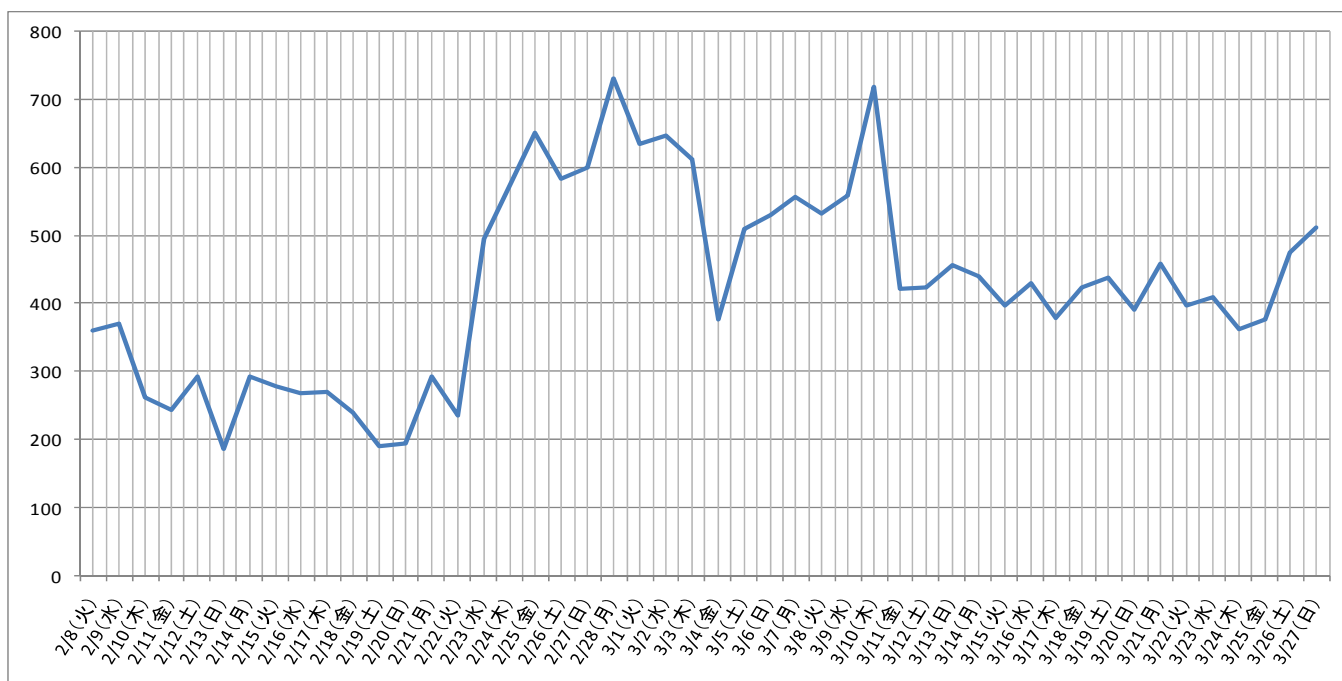
④外国人相談者向け回線

配偶者に関する相談309件、その他の相談が572件（うち強姦・強制わいせつ18件）であった。

イ 相談件数の推移

相談件数の推移は図2のとおりであった。テレビスポットの放送が始まった2月23日以降、大幅に増加している。

図 2 相談件数の推移



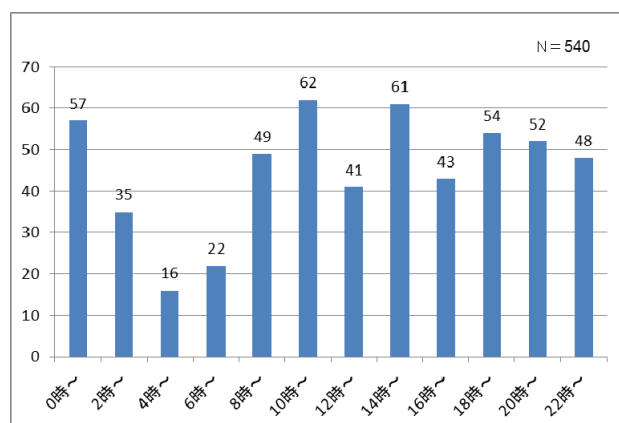
ウ 急性期の性暴力被害女性向け回線

ア②急性期の性暴力被害女性向け回線に寄せられ540件の「強姦・強制わいせつ」に関する相談の状況は次のとおりであった。

(ア) 相談開始時刻

相談開始時刻については、22時から翌8時の間に開始された相談が全体の約3割(33.0%)であった(図3)。

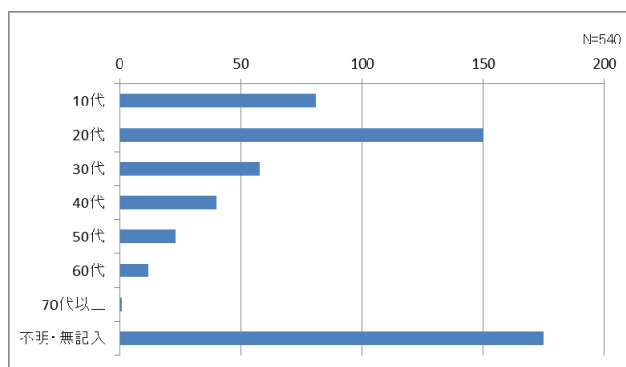
図 3 相談開始時刻



(イ) 相談者の年代

相談者の年代は、「10代」(15.0%)、「20代」(27.8%)、「30代」(10.7%)と、30代以下が半数以上(53.5%)を占めていた(図4)。

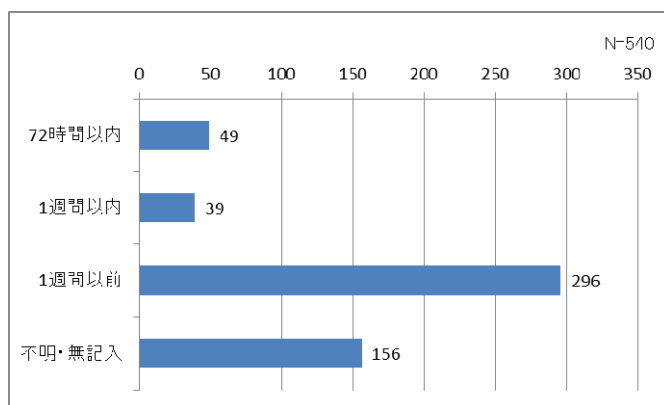
図4 年代別相談件数



(ウ) 被害の時期

被害の時期については、「72時間以内」が49件(9.1%)、「1週間以内」が39件(7.2%)、「1週間以上前」が296件(54.8%)となっていた(図5)。

図5 被害の時期



(エ) 加害者との関係

被害者との関係は、「知っている人」が310件(57.4%)であった。

表 2-1 加害者との関係別相談件数

	件数	%
知っている人	310	57.4
配偶者、元配偶者	18	3.3
交際相手、元交際相手	30	5.6
家族(①)	76	14.1
上記以外の知人等(②)	186	34.4
知らない人	85	15.7
不明・無記入	145	26.9
合計	540	100.0

表 2-2 家族①の内訳

	件数	%
親(義理含む)	44	57.9
兄弟(義理含む)	11	14.5
上記以外の親族	21	27.6
合計	76	100.0

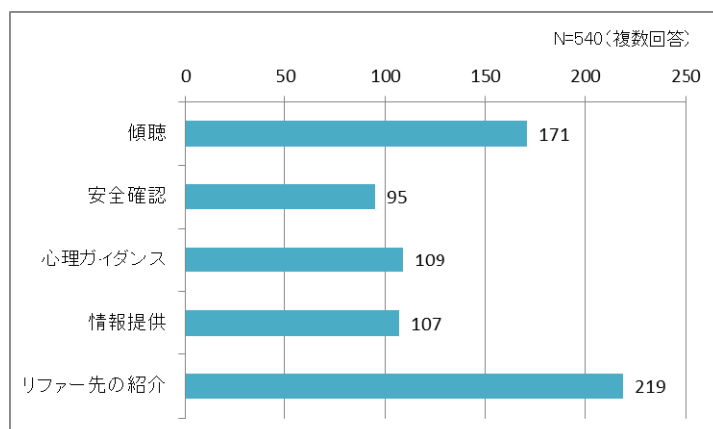
表 2-3 上記以外の知人等②の内訳

	件数	%
職場関係者	41	22.0
学校関係者	18	9.7
地域の関係者	7	3.8
上記以外の知人・関係者	79	42.5
不明・無記入	41	22.0
合計	186	100.0

(オ) パープルダイヤルを通じておこなった支援の内容

パープルダイヤルを通じておこなった支援の内容は、「リファー先の紹介」219件(40.6%)が最も多く、次いで、「傾聴」171件(31.7%)、「心理ガイダンス」109件(20.2%)であった(図6)。

図6 支援の内容



リファー先は、「男女共同参画センター」48件（21.9%）、「性暴力被害者支援民間団体」41件（18.7%）、「法テラス」37件（16.9%）、「警察相談窓口」16件（7.3%）、医療機関7件（3.2%）となっていた。

（カ） 来所相談

急性期の性暴力被害女性向け回線では、相談者本人が希望する場合には、対面で相談を受ける来所相談を行い、相談期間中、7件の来所相談を行った。

（3） 付き添い支援

相談を通じて電話相談員が付き添い支援の紹介を行ったのは99件となった。また、その紹介を受けて被害者が付き添い支援を希望し、電話相談員が付添支援拠点に連絡を行ったのは54件となった（表3）。

付き添い支援を行った先は、「市町村配偶者暴力相談窓口」が17件、「被害者支援民間団体」、「医療機関」、「警察相談窓口」がそれぞれ4件となっていた。

表 3 付き添い支援の紹介と拠点への連絡

	相談	付添支援の紹介		付添支援拠点への連絡	
	件数	件数	%	件数	%
①女性相談者向け回線	15,454	84	0.5	28	0.2
②急性期の性暴力被害女性向け回線	2,216	6	0.3	4	0.2
③男性相談者向け回線	1,814	-	-	-	-
④外国人相談者向け回線	978	9	0.9	7	0.7
不明・無記入	-	-	-	15	-
合計	20,462	99	0.5	54	0.3